

みんなのおた場

届いたお手紙から みんなのおたより紹介



ありがとう

平成23年3月11日午後2時46分に、東日本中心に震度6強の地震が発生し、その後各地に巨大津波が襲ってきて、石巻市もとてもない被害を受けました。我が末広町内もひどい状態で、子どもたちに連絡を取ろうと国道398号沿いの公共電話ボックスに歩いて行

きました。履いていた長靴の中にまで水が入る状態でした。子どもたちには通話不能で、南側(海方面)には当然進めませんでした。このような災害の直後から、ボランティア活動を続けている方々には本当に感謝しています。そのなかで、地域に関わりのある、ボランティア団体のお話をします。

この団体は、七十七銀行 穀町支店付近に拠点を置き、施設の一階は被災者の皆さん、被災者を支援している皆さんのオープンスペースとして開放しており、施設では県内外から来られるボランティアに食事と宿舎を提供しています。また、この施設は地域の活性化にとっても役立っています。食事を協賛して地域のご婦人が協力して喜ばれたり、地域活動に施設をお借りしたり等、ご協力をいただいています。

被災された方々には、被災後の沈んだ日常生活をボランティア活動に寄与することで明るく楽しく日々を暮らして欲しいと思います。またその活動によって地域が活性化していくことを願っています。

にありがとうと申し上げたい。(武川 實)

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのお話をお寄せください。
テーマ 「ありがとう」
日常の生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。
字数 400字以内
投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課までにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。
注意事項 公序良俗に反するものなどやスペースの関係上、投稿いただいたものを掲載できるものではありません。また、字数などの関係で内容を調整させていただくことがあります。
☎ 秘書広報課(内線4025) 〒986-8501(住所不要)
Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

文化財(たんぽ) 70

江戸時代後期の和淵町場

石巻市文化財保護委員 勝亦浩之

北上川沿いに位置する桃生郡深谷和淵村(現・石巻市和淵)は、地域における水陸交通の中心として栄えました。武田信玄の弟・信次を

祖とする武田氏が幕末まで治め、その状況は「永代留御町方諸願之部」(武田家資料)、『仙台市博物館所蔵』に記されています。

和淵に集め、和淵を海産物取引の中心地にする。そのためには、和淵と同じく商業の中心地となることを望む他の町場との争いに勝つ必要がありました。当時、和淵が対抗意識を抱いていたのが周辺の寺崎や飯野川です。天保七(一八三六)年、和淵の住民らが武田氏に町場再建への援助を求めた際、寺崎は沿岸部との関係が希薄であること、飯野川は洪水が発生すると船着

き場が使用不能となることを挙げて、和淵の利点を強調しています。現在でも地域振興を目的とした誘致合戦がみられますが、江戸時代にあっても、地域経済の中心地となることを目指す町場間の競争が行われていたのです。

※1 飢饉：天候不順による凶作で、深刻な食糧不足となること。とくに天明の飢饉(二七八〇年代)では、仙

台藩の人口の約三割にあたる一五〇二〇万人の死者を出したといわれる。天保の飢饉は、「七年飢饉」ともよばれ、長期にわたって凶作が発生した。(仙台市史 近世三、二〇〇四年)

※2 町場：宿や商店などが集まる村の中心部の集落



▲「永代留 御町方諸願之部」(武田家資料) 仙台市博物館所蔵

江戸時代は、和淵(※1)が数多く発生した時代でした。そのうち天保の飢饉(一八三〇年代)では、長雨で大洪水が発生し、川沿いの和淵は大きな被害を受けました。その際、商人への

友好都市交流記念事業の実施

石巻市では、「山形県河北町」と友好都市を締結しています。文化・産業・教育・スポーツなどさまざまな面での交流を通じ、友好を深めてきました。

平成23年で新市として友好都市を締結してから5周年を迎えることから、記念事業としてスポーツ少年団の交流を予定しておりましたが、東日本大震災により交流事業が中止となりました。

一年遅れとなりましたが、山形県河北町の呼びかけにより本年、記念事業を開催することになりました。また、山形県河北町は徳島県藍住町とも友好都市締結20周年を迎えることから、3市町合同での事業実施となっております。

「～絆～友好都市交流記念事業」と題して、更なる友好の絆を深めるとともに、相互の発展を図るため各種交流記念事業を開催しています。

●式典・記念イベント

【期日】 8月4日(土) 【会場】 サハトベに花(山形県河北町)
【内容】 式典では、3市町での災害相互応援協定の締結のほか、河北町から石巻市へ義援金の贈呈が行われました。記念イベントでは、藍住町から「阿波踊り」が、河北町からは「べに花かほく

音頭」と名誉町民である民謡歌手大塚文雄氏の歌など、そして、本市からは桃生地区の「はねこ踊り」が披露されました。

●スポーツ少年団交流試合

【期日】 9月15日(土)～16日(日)
【会場】 サン・スポーツランド河北野球場、谷地中部小学校グラウンドなど(山形県河北町)
【内容】 河北町を会場とし、藍住町と河北町、本市内の3チームでの交流試合を行いました。各チームとも汗を流しながら、一生懸命戦い、試合終了後にはお互いの健闘を称えて、友好を深めました。

●今後の事業

友好都市各市町の代表校による、授業風景や自分達のまちの紹介を行うインターネットを活用したテレビ会議を行う予定です。また、友好都市締結を記念して、石巻市からは市の花である「ツツジ」の苗木を河北町へ送ります。河北町から町の木である「さくらんぼ」の苗木が贈られる予定です。
☎ 市民協働推進課(内線4233)・河北総合支所地域振興課 ☎62-2111



阿波踊り(上)と災害協定書署名(下)



まちの話題

牡鹿地区

文化財レスキュー展 in 鮎川

8月12日(日)～14日(火)
牡鹿公民館



東北学院大学博物館と牡鹿公民館による「文化財レスキュー展in鮎川」が開かれました。文化財レスキューは、全国の学芸員や研究者が取り組む被災文化財の保全活動です。

会場には昨年の東日本大震災で被災しながらも学生たちの手で修復された民俗資料約100点を展示。明治から昭和にかけて使われた漁具や農具、ミシンなど身近な生活資料で、訪れた住民は懐かしそうに展示物に見入っていました。

北上地区

ほっこり夏まつり 大盛況

8月24日(金)
仮設にっこりサンパーク団地



仮設団地の住民等による「にっこり夏まつり」が開かれました。焼きそばや焼き鳥、かき氷などの出店が並んだ会場には、子どもから高齢者まで多くの住民が集い、笑顔でイベントを楽しみました。

同団地自治会が入居者の親睦を深めようと初開催。女性に人気のハンドマッサージやメイクアップサービスのほか、女流落語家・古今亭菊千代さんによる落語寄席や花火大会も催され、夏の一日を満喫しました。